

「透析患者のリンコントロールの重要性～管理栄養士の取り組み～」

松下会 あけぼのクリニック 北岡康江

私たち栄養士は慢性維持透析患者の合併症予防の為、体液管理・高カリウム血症・高リン血症・低栄養の改善についての栄養指導を行っている。その中でも、高リン血症は血管石灰化の大きな要因であり、透析患者の栄養指導の中でも依頼が多く、透析効率の改善や薬物治療の関与はもちろんであるが、生命維持の基盤では食事療法の重要性が示唆されている。

しかし、食事療法は患者自身が取り組める治療・対処方法としての重要性が大きいものの継続性は低いのが現状である。患者のモチベーションを保ちつつ栄養指導を行うためには、患者背景を十分に把握した上で、患者本人及び家族に行うことが原則であるが、最近は一人暮らしの患者も多いため、患者を十分に理解し指導方法及び媒体の選択が重要である。当クリニックでは、継続指導を行う為の媒体の選択や指導方法について積極的に取り組んでおり、今回は実際の症例を交えながら報告する。

透析の食事管理—栄養士として、患者として—

日清医療食品（株）管理栄養士インストラクター 立花 美那穂

12年の透析療法後、父親の腎臓を移植。大きな合併症もなく、16年目を迎えます。小さな頃から腎臓を患っていたためか、自然と栄養士の道へと導かれ、料理講師、病院栄養士を経て、給食会社に就職。現在は、栄養士インストラクターとして後輩の指導に当たっています。

自分の体験を交え、患者様に実際に指導してきた、①腎臓の働き②食事療法の必要性③Pの管理を主に透析の食事管理を説明していきます。

以前は、食事療法を苦痛だと感じていたため、患者様に食事療法が苦痛なものではなく、楽しむものだと思ってもらいたいと考えながら業務にあたっています。また、いつ透析療法にもどるかわからないため、慢性腎臓病（CKD）にも取り組みたいと考えています。いつも、患者様を支えてくださる看護師の方々のお役に立てばうれしく思います。

演題「当院のカルシウム・リン値コントロールの現状
～栄養士との連携や取り組みについて～」

医療法人 英山会 平山泌尿器科医院 透析科・栄養科

松崎 知世（まつざき ちよ）、東海英子、桑野真由美、宮口美幸、平井邦子、桑原節子、石松隆志

（目的）平成19年4月～平成20年2月の11ヶ月間に在籍していた外来透析患者116名（男性：73名、女性：43名）について、カルシウム・リン値の分布状況を調べたところ65%が適正範囲内という結果が出た。このデータを維持・向上するために当院で行っている取り組みを紹介する。

（対象）当院外来維持透析患者116名

（方法）データ分析期間：平成19年4月～平成20年2月までの11ヶ月間。平成20年3月より、月1回透析前の待ち時間を利用して栄養教室を実施した。同時に栄養教室の内容を栄養便りという形式にして、当院透析患者全員に配布を開始した。この取り組みにより患者意識の変化があったか外来透析患者にアンケート調査を実施した。

（結果）患者意識の変化がみられた。

（考察）栄養教室や栄養便りの効果は出てきている。今後も患者教育の一環として継続していき、検査データ改善に努めたい。